芦高新聞

発行所
県立芦屋高等学校
出版部
兵庫県芦屋市宮川町6-3
℡ 0797－32－2325

定期戦特集号

芦高9－8県西　5連勝達成!!

県西追い上げならず！

去る五月十二日、西宮市民グラウンドに於て、第二十六回定期戦が行われた。両校とも接戦で、九対八の一点差で芦高の勝利となった。

バスケ

男67－83
女69－44

キラリと光る汗

男子の試合は一時三十分より始まった。

最初、両校共素早くシュートを決めにかかり、まず県芦が先取点を挙げた。それに対抗し県西もシュートするがなかなか入らず、早くも県西は作戦タイムを取った。しかし落ち着きのあるプレーで三十九対三十二と四ゴール差で県芦リードで前半終了。

後半は、追う県西が三ゴールたて続けに入れ一気に県西ムードとなった。この後、両校交互にシュートを決め、緊迫した試合展開となった。しだいに観客は一つになって応援したが、終盤県西の確実なシュートに、県芦の疲れがみられ無念にも八十三対六十七と県西の勝利となった。

‖県西顧問談‖

お互い小さなプレーばかりだったのでもっとスピードのある試合をしてほしかった。県芦の4番ぐらいのスピードでみんながプレーしたらもっと高度な試合になっただろう。総体に向けて県西、県芦共々がんばっていきたい。

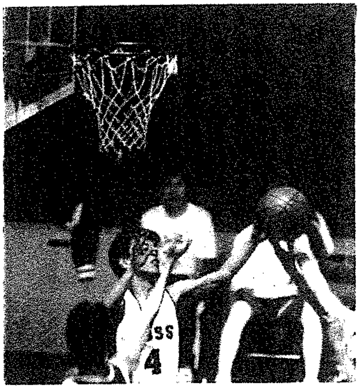
‖県西主将談‖

いい試合だった。引退まで時間がないので最後までがんばります。芦高は足で責めてくるチームで苦労しました。予想した通りのチームでした。お互い最後までがんばりましょう。

＊　＊　＊

予定より大幅に遅れて、十一時五十七分に女子の試合が開始された。

開始されて早くも、県西のプッシングによる反則でフリースローのチャンスをつかみ、一点を先取したが、両校ともシュートが決まらず、五分五分の試合となった。しかし、芦高は、何度かのフリースローのチャンスを迎えたが、あまり点にはならず、苦戦していたようだ。前半は、二十九対二十五と芦高が四点リードを取った。



後半も、県芦が先取し、ロングシュートを決めると両校とも、ゴール下からのシュートが減ったが、確実に得点を重ねた。又、芦高のミスが少なくなり、点差を広げて、六十九対四十四と、大差で芦高の勝利となった。

‖芦高顧問談‖

まあ、順当ですね。立ちあがり雰囲気にのまれ、両選手とも固かったが、後半は三年生オールメンバーが出場して、実力が発揮できた。全体として、シュートが入りにくかった。皆、全身全霊でボールを叩いていたと評判がおどろいていた。

‖芦高主将談‖

いつものペースが出ずに困った。県西は外からのシュートが多かった。今後は100%実力が出せるようにし、完全燃焼したい。

体操

オープン

開会式が終わった後、すぐにつめかけた観客で、ほぼ席が埋まった頃、体操部の演技が始められた。今年も去年と同じく、十字に並べられたマット、跳場の他に男子は鉄棒と平行棒、女子は平均台の種目があった。最初は両校ともマット運動で、前方抱え込み宙返りなどの高度な技を披露して観客の拍手を集めていたが、しだいに、跳馬や鉄棒など自分の得意とする種目に移っていった。途中、多少の失敗は見られたが大きな怪我もなかった。こうして、体操部の短かかった演技は終わったが、今年もより一層の活躍が期待されるだろう。

‖芦高主将談‖

例年になくいろいろな種目が出来た。これからも頑張りたい。

バレー

男2－0
女1－2

手に汗にぎる熱戦

バレーボール男子の試合は、一時四十分から体育館に於て行われた。

満員の観客が見守る中、開始された第一セットは両校ともミスが目立っていたが、その分をすぐに取り戻し、出だしから接戦が続いた。しかし、芦高のブロックやサーブがよく決まり、しだいに芦高のペースになっていった。芦高がセットポイントをとった所で、県西も必死に頑張っていたが、芦高のブロックが決まり、十五－十一で、芦高が第一セットを取った。

第二セットは、両校ともアタックがよく決まっていた。観客の応援の声も高まり、体育館は熱気に包まれていった。このセットも芦高は好調で、県西のミスを誘い点差を広げていった。県西も最後の粘りを見せたが、十五対九で芦高のストレート勝ちとなった。

‖芦高顧問談‖

試合の内容は、もっと上のレベルの力を出して欲しかったが、故障者が多い割によくやったと思う。近畿大会出場を目標にしている。

‖芦高主将談‖

去年負けているので、勝てて最高にうれしい。県西はエースがいなかったので、エースがいたらもっと苦戦していたと思う。これからの試合には全部勝ちたい。

＊　＊　＊

バレーボール女子は、体育館に於て、予定より十分早く始まった。芦高ムードで始まったかと思われたが、県西のアタックが決まりだし、接戦が続いた。両校とも、頻繁に選手交替やタイムを取っていたが結局十五対十三で芦高が第一セットを取った。

第二セットは、全体的に県西のペースで試合が進められた。途中、芦高の追い上げも見られたが、ミスが目立ち、このセットは九対十五で県西が取った。

続く第三セットは、芦高がペースを取り戻し、接戦が続いた。一時は芦高リードだったが、県西も粘りを見せ、芦高のちょっとしたミスから十三対十三の同点となった。観客の応援の中、しばらくサーブ権の取り合いが続いたが、結局、芦高のミスで、このセット、十三対十五で県西の勝利となった。

‖県西顧問談‖

定期戦らしい試合が出来た。今度は、県大会で一つでも多く勝ちたい。芦高は元気のあるいいチームだと思う。

‖県西主将談‖

最初、乗らなかったけれど、応援してもらったので乗ることが出来た。芦高は元気があるから負けずに声を出すようにした。勝ててよかった。

卓球

男7－4
女7－2

体育館の半面に男女各四面ずつ卓球台が用意され、予定時刻より少し遅れ、試合が開始された。

女子は、九試合中、二試合がダブルスで七試合がシングルスだった。

ダブルスの第六テーブルで行われた試合は、最初、接戦だったもの後半つきはなし、第二セットでは県西に先攻されるが同点にし、その後は芦高ペースで結局二－〇で勝利を掴んだ。

第五テーブルは、第二セットは競いながらも試合をものにしたが、その後は県西のうまいプレーにかわされ、一－二で惜敗した。

シングルは両校ともミスの多い試合でラリーもスマッシュもあまり見られず、最初はリードしていたが自らのミスで後半、接戦という試合が多かった。

‖県西顧問談‖

芦高はいつもどおり強かった。練習熱心で試合態度も、ものすごく良かった。

男子は十一試合中、二試合がダブルスで、シングルス共に、点を離したり離されたりというような試合でかなりの接戦だった。ジュースになったセットも多く、セットごとの勝敗の点差はあまり開かなかった。接戦の中、芦高の後半の追い上げが目立ち、試合のほとんどが二セット共、芦高が先取した。

卓球は、狭い台の上で小さな球を打ち合う競技なので、観客席からは、細かな動きなどが見取れず、全体的に少し、もり上がりに欠けるような感じがした。

‖芦高顧問談‖

試合には勝ったが、まだ実力がでていない。県大会までの四週間に練習をやり直したいと思う。

‖芦高部長談‖

もう一つ内容が悪く、迫力にかけたと思う。県の総体でもっとがんばりたいです。

硬庭

男4－8
女13－2

九時三十分からテニスコートに於いて、硬式庭球男女の試合が行われた。

男子の方は、初めから県西のペースに巻きこまれ、少々あがり気味の様子であった。慎重なプレーを演じて、サーブ権を握ろうとしたが、それもむなしい結果に終わった。

試合も後半にせまってきた頃、芦高のプレーにも落ち着きが見られるようになり徐々に点数をかえしていった。結果は八対四で芦高の負けとなったが、そのくやしさを次回の試合にぶつけてほしい。

‖県西主将談‖

みんなよくがんばった。芦高は、一人一人の気合いの入れ方はすごいと思った。来年も一、二年力を合わせてがんばってほしい。

‖芦高主将談‖

くやしい。県西は、なかなか手強い相手だった。来年はがんばります。

女子の方は、出だしからシングルもダブルスも芦高ペースで進み、断然芦高の有利となった。県西の粘り強いプレーで、接戦の七対四に持ちこまれたが、タイブレークもなく、最終的には13対2で芦高の圧勝となった。

‖芦高主将談‖

実にいい試合だった。来年も絶対に勝つ。相手チームの、試合を見ているときのマナーの悪さが目についた。

‖県西主将談‖

一年間がんばってきたが、練習内容量の違いで、無惨な結果を生んでしまった。芦高は大変うまいの一言しか言えない。この試合をバネにして、来年の定期戦はがんばりたい。

軟庭

1－2

当日の試合は、予定より三十分遅れの一時に開始されたが、今年は男子の試合が県西の部員不足のためになくなり、女子ダブルスの三試合だけが行われた。

第一試合は、最初から県西のペースで途中、反撃はしたものの及ばず、二－四で敗退した。

第二試合は、第一試合とはうってかわって、最初から芦高ペースであった。中盤せり合ったセットもあったが、最後には本来のペースをとり戻し、四－一で芦高が圧勝した。

第三試合は、各セットともせり合ったが最後には県西のペースになってしまい、焦りが出てきたのか、ミスが目立ちはじめ、結局、一度もペースを戻すことなく、試合内容も点数に結びつかず、〇－四と納得のいかない負け方であった。

結局一－二で県西の勝利となった訳だが、観客が少なく今ひとつ盛り上がらなかったが、両校の試合は充実しており、見ごたえのある試合であった。

‖芦高主将談‖

県西を少し甘く見てしまった。実力を出す前に負けてしまい、くやしい。来年は今の一年生にぜひ勝ってもらいたい。

裏表独語

もうだいぶん暑くなってきましたが、今はちょうど春と夏の中途半端な時期です。私はこういう時期が嫌いです。なぜって、学校に着ていく服装を考えるのがめんどうくさいからです。ふだんの時もそうですが、季節の変わり目って気温が変わりやすいから今日は暑くなるかなー、どうかなーって、ついつい迷ってしまうんです。みなさんも同じような経験ありません？　いっそ、制服があればいいのにと思います。

▽本当に朝は、忙しいハードスケジュールです。着る服を決めたり、寝ぐせのついた髪にドライヤーを当てたり、しょうもない事に時間を費やしてしまって、危うく電車に乗り遅れそうになった、なんて事はしょっちゅうです。私は駅までは自転車で行っていますが、駅の自転車置場は自転車とバイクでいっぱいで、置場に困ってしまいます。ある時なんか、私が自転車を入れようとすると、どこかのおじさんが、そこに入れると自分の自転車が取れないと怒鳴ってきて、電車に二本も乗り遅れた、なんて事がありました。こういう自転車置場、もっとどうにかならないものかなって思います。

▽毎日、同じ時間に同じ通学路を通っていると、いろんな通勤、通学の人と顔見知りになりませんか？。中学校時代にも、待ち合わせをしていて、いつも通る人がたまに通らなかったら、今日はどうしたんだろう…なんて思ったりしました。こんな風に人を見ている私は、ちょっとおかしいのかなーっ。

▽みなさんの朝はどうですか？。

（おばあちゃん子）

野球

1－1

5月10日、芦高グラウンドに於て、対県西定期戦前哨戦である野球の試合が行われた。

開会式は予定より15分おくれ、芦高主将の選手宣誓両校のエール交換ののちに試合は幕をあげた。

試合は2回表、県西に二長短打うたれ一点をいれられ、その後も走者、一、二塁のピンチを迎えたが、その後はよくがんばった。

芦高は5回裏に、長瀬のヒットに北田の送りバントもセーフになり永澤のファーボールで1アウト満塁のチャンスを迎えるが、県西ピッチャーのうまい投球にかわされ、結局、内野ゴロの間三塁走者がかえった1点でとどまった。

その後は両チームとも、走者を出すのだが、決定打がなく延長戦に入った。

延長後も県西はノーヒット、芦高も田中のセンター前のヒット1本で無得点。結局12回まで試合は続けられたが1対1の引きわけに終わった。

今年の前哨戦は、例年より応援している人が多く、応援団も声をからしてがんばり、試合もすばらしい投手戦であった。これで5回の好機にあと一点でも入っていればなァ。と惜しまれる。

‖芦高主将談‖

自分らの力不足で勝てなくてくやしい。県西はいいチームだった。どんどん力をつけて夏にはがんばりたい。

‖県西主将談‖

12回はすぐだった。芦高はピッチャーもよく、守備もよかったので苦しめられた。

陸上

1－1 またも引き分け

予定より十分遅れて、男子八〇〇Mより開始された。

今年はフィールド競技がなく、トラック競技のみとなった。又、女子二〇〇Mは行われず、昨年の女子一五〇〇Mのかわりに、男子と同じ三〇〇〇Mが行われた。総合得点は男子二十六対十九で勝ち、女子十一対十九で敗け、結局一勝一敗と勝負を分けた。記録は以下の通り。

男子一〇〇M
①11秒1—藤原（芦）
②11秒8—桝本（西）
男子四〇〇M×4
①3分36秒—（芦）
②3分37秋—（西）
男子八〇〇M
①2分2秒—（芦）
②2分3秒—（芦）
男子三〇〇〇M
①9分06秒—岩谷（西）
②9分08秒—堀（芦）
女子一〇〇M
①13秋2—福山（西）
②13秋4—向井（西）
女子一〇〇×4
①52秒5—県西
②57秒9—県芦
女子三〇〇〇M
①11分10秒—西出（芦）
②11分29秋—谷垣（西）

‖芦高主将談‖

いい試合ができたと思うインターハイに向けてがんばりたい。なかなか強豪なチームで、僕らの方が胸をかりました。

‖県西主将談‖

八〇〇Mで負けたのが、誤算だった。地区予選でがんばろう。一人でも多く、インターハイにだしたい。芦高はねばり強かった。

柔道

格技場に於いて行われた。柔道の試合は、芦高の先鋒は和田、県西は松本で始まった。一進一退の攻防の後、時間切れ引き分けとなった。続く芦高の谷口は巴投げ合戦の末、谷口が有効を一つ取ってまず芦高に一勝をもたらした。そして中堅の坂田は立ちあがりから積極的な攻撃をみせ背負い投げで技ありそして上四方固めを決めて、合わせて一本勝ちとなった。そしてもう負けはなくなった芦高は副将の小川が県西の上野に返し技で有効をとられたものの、今度は小川が横四方固めで反撃に移って上野が場外へ逃げようとしたが小川がふんばり、足の指一本残って結局小川の一本勝ちとなり芦高の勝利は確定した。こうなると県西の大将金沢は一勝でもと気合いを入れて試合に臨んだが、芦高の大将山田が、試合開始後10秒払い巻き込みで金沢に一本勝ちした。結局芦高側の4連勝で見事に勝利を飾った。

‖芦高顧問談‖

スコアほど差はなかったと思う。実力はうちの方が遙かに上だが、普段の力を出していた者が少なかったようだ。

‖芦高主将談‖

精神面では、こちらの方がやや劣っていたと思う。これからの試合のいい勉強になった。

サッカー

4－1 芦高圧勝!!

試合前の両校共の余念のない練習のため予定より大幅に遅れて晴天の中、試合は始まった。

試合は両校共実力伯仲に見えたが、芦高は個人のテクニックで上回り、鋭く無駄のない攻撃で確実に得点をものにした。

前半約13分後、県西が右からのボールを上げセンターリング、左の深い位置からのシュートがゴールの右に入った。そしてこれに負けじと芦高も必死の攻撃へ入り11番高木へのペナルティでペナルティキックが入り、幸運な1点をあげ同点へと持ち込んだ。そして28分後2番河合がうまくキーパーを誘い出しシュートをした。しかし、惜しくも県西のバックスの好守に阻まれた。そして、一対一で接戦のまま前半が終了した。

後半になり県西の動きが前半飛ばしすぎたのがたたり少し鈍くなった。この県西の動きを敏感に感じとった芦高は後半に入り数分後、右サイドのゴールラインぎわまでボールを持って上がり、低目にセンタリングしたものを小気味良く10番小林がヘディングシュートを決め二対一の逆点にした。そして、続け様に相手のスキをうまくつき綺麗にシュートを決めた。そして、20分後相手の攻撃をうまくかわし8番立石が右サイドから1人で持って上がり、相手のバックス1人をかわし、キーパーが伸ばした上を鋭くとどめのシュートを左足で決め、四対一で圧勝した。

結局、阪神間優勝の経験が大きくものを言ったようだ。

‖芦高顧問談‖

勝った事には勝ったけど、相手のファイトあるプレーに受身になっていたので、もっと積極的にせめればよかったと思います。そして、これからは精神面で有位に立てるようにし、県に通用するチームを作りたいです。

‖芦高部長談‖

県西はまーまー強いけど前半とばしすぎ、スタミナの配分を考えてなかったようで、その辺が直接負けにつながったんだと思います。そして総体上位をめざしたいです。

◆ ◆ ◆

名物先生シリーズ 山瀬先生と玉井先生の巻

名物先生シリーズ第二弾一人目は、女子高生の間で今一番人気のある（？）山瀬先生です。

出版部（以後、出と略）「先生の初恋はいつ頃でしたか。」

山瀬先生（以後、山と敬称略）「そんな事聞くなよ。おまえらただの好奇心で聞いてるんちゃうか。俺は硬派銀次郎やったから、女とはあんまりしゃべらへんのや。」

出「本当言うと、しゃべってもらえなかったんじゃないんですか。」

山「そんな事あるかー。自分で言うのもなんやけど、高校時代はもててたんやぞ。ABCの評価で言えばA'ってとこやな。」

出「ちょっと自意識過剰ですね。好きな女性のタイプはどんな感じですか。」

山「嫌いなタイプやったらいっぱいあるぞ。まず、だらしない奴は最低や。それに不潔でおしゃべりな奴も嫌いや。」

出「全部先生に当てはまりそうですけど…。では、教師になってなかったら、何になってたと思いますか。」

山「トラックの運ちゃんかな。」

出「さては高倉健をめざしてましたね。」

山「それを言うなら、菅原の文ちゃんやろ。時代はパーシャルだ！」

出「最後に一言。」

山「めざせ花園。みんな俺について来い！」

この様に、ちょっと巻き舌で語って下さいました。

次は玉井ちゃんこと国語の玉井先生です。

玉井先生と言えば私事ではありますが、一年の時古典を担当されていたけれど二年では古典も現代国語も担当ではないので、とても懐かしいのです。玉井先生の印象と言えばたこちゃんみたいで、いつもニコニコしていて、時々質問に答えられなかったりすると怒って「何！わからない、もういい座れ。」と言ったりするところです。

それではそろそろインタビューに入りましょう。

出版部（以後、出と略）「高校時代について語って下さい。」

玉井先生（以後、玉と敬称略）「何を言えばいいのかなァ。」

出「そうですね、初恋のことなんか。」

玉「えっそんなこと言うの。」（顔はニコニコして）

出「いつ頃ですか。」

玉「二年。」（ぼそっと）

出「えっ、何ですか。」

玉「高二だな。」

出「同い年ですか。」

玉「うん。卓球部でね。」

出「先生、今何才ですか。」

玉「いくつに見える。」

出「四十五ぐらいですか。」

玉「四十……。」（年はカットしときましょか。）

出「へェ…。」（えっうちの父ちゃんより若いのか。）

出「そう言えば先生、中国語ペラペラなんでしょ。」

玉「ペラペラじゃないよ。でも台湾へ一月ほど勉強に行ってたから日常生活ぐらいは。」

出「先生っていう職業についてどう思いますか。」

玉「教師は、好き。いやあまり好きじゃないけれどやりがいのある仕事だな。いろいろ考えられて、いいと思う。」

出「あっそうだ子供の頃どんな子だったんですか。」

玉「遊びっ子だったなァ。ガキ大将で。でも医者になりたかった。」

出「先生だったら、今頃何人も殺してるんじゃないんですか。ここはどうするんだっけ、じゃ縫っちゃおうって。」（ケラケラ）

玉「そうだなァ。」

出「教師をやってなかったら何をやってましたか。」

玉「お好み焼き屋さんか一杯飲み屋さんだな。」

出「一同納得」

出「あァ、それじゃあどうもありがとうございました。」

さァどうでした。今回も読んでいただいてまことにありがとうございました。

◆ ◆ ◆

剣道

男2－2 女2－3 気合い一発!!

接戦の女子の試合に引き続いて行われた男子の試合は女子の雪辱を期す芦高と県西との間で、嫌が応にも雰囲気は盛り上がった。

第一試合は芦高小倉が、小手で先制したが、相手も足の負傷にもめげずに小手を取り返し、互格のまま試合は進んだ。しかし小倉は、攻めまくる相手の隙を冷静について胴を決め勝ち、幸先の良いスタートを切った。

第二試合は大塚が積極的に攻めたが、惜しくも引き分けた。

第三試合は福永が開始早々、面を決め勢いに乗るかと思われたが、その直後小手を取られ、そして終盤ついに胴を取られて敗れ、タイにもちこまれた。

第四試合は高橋が、これも開始早々面を決めたが、直後に面を取り返されて、嫌なムードになったが、今度は高橋が、これも面をもぎ取って二対一とリードした。しかしここまでの本数差は僅かに一本。実力伯仲の試合の連続に、選手、観客とも熱気は盛り上がる一方だった。

最後の第五試合、芦高は藤井が出場した。少し緊張気味の藤井は、動きが固かった。それに対し県西は二本取って、相手には一本も与えない事しか勝利がないためか、激しく攻めてきた。そして小手、胴を取られ、藤井は力を出せないまま敗れた。これで二勝二敗一分けとなったが、本数では県西が上回り、県西が男女共に勝利を収めた。しかし力はほとんど互格で、伝統の定期戦にふさわしい好試合だった。

‖県西主将談‖

芦高は強かった。勝てたのは偶然で幸運だった。次の試合に向けて、頑張っていきたい。また、芦高も頑張っていって欲しい。

＊ ＊ ＊

去年に引き続き勝利を収めようとする芦高と、去年の屈辱を晴らそうとする県西の間には、試合前からの興奮と緊張によった重苦しい空気が漂い、やや予定より遅れて試合が始まった。

第一試合、芦高生駒の面が、始まりざま決まった。これに負けじと相手も攻めまくったが、生駒はよく防御して一気に二本目を取りにいった。この面が鋭く相手の隙をつき、なかなかいいスタートを切った。

第二試合は、いきなり芦高本庄が攻撃を上手くかわし面を取り二勝目をあげた。生駒、本庄に続き勝利をあげるかと思われた第三試合は、相手の積極的な攻撃を上手くかわしていたが、結局面を取られてしまった。その後、芦高中村が必死に攻撃するが、相手のかわし方の方がやや上だったようだ。

第四試合は相手に先制されてしまい、山田も必死の攻撃に出るが、相手のかわし方が上手かったのか、続いて面を取られてしまったが、力は互角だったようだ。

第五試合は両校とも今までに劣らず必死で、互いに一本取り合った後接戦をしこのまま引き分けに終るかと思われたが、県西最後の意地を見せ、ついに芦高和田は面を取られてしまった。一本取っていただけにとても残念そうであった。

出版部
新入部員募集中
写真の撮れる人
大歓迎!!
212教室まで

編集後記

▽今回は〝定期戦〟の特集の新聞を作った訳ですが、つい最近〝新任・離任〟の新聞を作ったばかりだというのに、なんて忙しいのだろうとため息ものです。『なぜ、こんなに忙しいんだ？』という答えは実にカンタンで、人数の少なさです。そうそう、考えてみれば、今年の出版部には新人部員がいないではないか。ああ、心やさしい一年生。入ってきてちょうだい。▽今回御協力頂いた。先生生徒の皆様、本当にどうもありがとうございました。これからも御協力お願い致します。

部員から一言

▼ばう！（梅宮辰夫、俺のダチのかわりに根性焼きやらせていただきます。）▼人が取材してる時に自分の事ばっかり売り込みに来るのはやめて欲しい。ねえ西川君！（鉄腕マリー）▼私って中学生に見えるんでしょうか。これでも私四月三日の早生まれなんですョ。（アイスクリーム）▼私、これでも高二なのに、大学生やお勤め人に見ないでよー。（おばん顔の私）▼サンチェは言葉の障害があるのでもうすぐバテます。（ゲーリー）▼みんな出版部に入って私と人生について語りましょう。（神津カンナ）▼〇〇先生の授業は、とってもよく眠れます。（あんな人なんて大嫌いだ！）▼空田満、二十才。（尾崎豊、二十才）▼わーん、生物の時間に正座させられたよー。（おばあちゃん子）▼私はいっつもエリエールのティッシュを持ってトイレへダッシュ！肌にやさしいエリエールで毎日さわやか。（Hな子だよーん。）